

論文審査の結果の要旨

氏名：青木千賀子

博士の専攻分野の名称：博士（国際関係）

論文題名：ネパールの女性グループによるマイクロファイナンスの活動とソーシャル・キャピタルに関する研究

審査委員：（主査） 教授 渡 邊 武一郎

（副査） 教授 吉 田 正 紀 教授 稲 葉 陽 二

1. 本論文の目的及び意義

本論文はヒンズー教の影響が社会の端々に見られるネパールにおいて、伝統的価値観とジェンダーによる複合的な差別を受けている女性たちが、マイクロファイナンス活動を通じて彼女たちが置かれている「人間貧困」の状況から脱却しようとする試みを、女性グループ内及びグループ間でのソーシャル・キャピタルの構築過程をとおして考察するものである。

特にダリットと呼ばれる不可触民と、バディと呼ばれる楽師・売春カーストの女性グループのマイクロファイナンス活動が、ソーシャル・キャピタルとの相互作用（シナジー効果）を生み出すことにより、社会的に結束・連帯することにより彼女たちの「人間貧困」の一因となっている差別構造の解消に大きく寄与する事を豊富な現地資料により示されている。具体的には、4年半に渡るネパール各地域においてのインタビュー調査を中心としたフィールドワークで収集したデータに基づき、マイクロファイナンスとソーシャル・キャピタルとの相互作用について、仮説を3段階に分けて分析し、それらが女性グループのエンパワーメントに繋がることを明らかにしている。度々政情不安が伝えられるネパールにおいて、また、社会の底辺に位置するカースト並びに不可触民に対するインタビュー調査を、4年半にわたり継続的に実施した事は、その困難を想像するに難しくなく、著者の学問追求の信念を感じられ尊敬に値するものである。

また、ソーシャル・キャピタルが社会制度に与える影響について、一つのモデルを提示することにより、今後の社会開発、人間開発と伝統社会、伝統的価値観との対立及び共存の問題に大きな示唆を与えるものである。

2. 研究方法

ネパール全土を網羅するエクステンシブな調査を通して、ネパール国内東西地域間における社会的・文化的状況の相違を背景にした、マイクロファイナンス活動の浸透状況と「人間貧困」脱出の程度との関連性を明示した。また、より厳しい社会経済的状況に置かれる西部のダリットとバディカーストの人々へのインテンシブな調査に基づき、女性たちが貧困と差別を克服していくプロセス、特に彼女たちの内的な変化のプロセスを的確に把握、報告している。

具体的には、2種類の聞き取り調査からなるフィールドワークを実施している。ネパールにおけるダリット女性を中心としたマイクロファイナンスに関連した聞き取り調査は、2009年3月から2013年12月の4年半に及び、24市町村を来訪し、調査地点・対象52、調査回数57回に上る膨大なもので、かつ聞き取り対象はマイクロファイナンスの女性グループメンバーとそれに関連のメンバーにとどまらず、サルキ（皮なめしカースト）の女性、ダマイ（仕立て屋カースト）の男性、カミ（鉄鍛冶業）の男性、スナル（金銀細工のカースト）の家族、手工芸品の店主、子供グループ、人身売買を国境で監視する監視員にまで及んでいる。加えて、バディ（売春カースト）コミュニティの実態調査では、9市町村を訪れ性労働を生業としている女性から14回に上る生々しいヒアリングを行った。

統一した調査票を用いたものではなく、ヒアリング対象の人数も記載がない部分があるが、両調査の内容は、現地における事実関係の確認とそれに基づく心象形成をするには十二分な質量を備えている。

これらの聞き取り調査に加えて、マイクロファイナンスとソーシャル・キャピタルとの相互作用についての仮説をインプット・プロセス・アウトカム の3段階に分けて呈示し、それに沿っての分析を試みている点も評価に値する。

3. 本論文の構成

本論文は、問題意識の提示、研究対象の概要、先行研究のレビュー、ネパールの社会的・文化的背景の解説、マイクロファイナンスの実態調査、不可触民の底辺に位置するバディコミュニティへの聞き取り調査、マイクロファイナンスがもつ女性へのエンパワーメント効果の検証、マイクロファイナンス活動とソーシャル・キャピタルの間の相互作用とそれがネパール社会へ持つ効果の分析、から成り立っている。

具体的には、序章、本論6章、終章からなり、その構成は以下の通りである。

- (1) マイクロファイナンスとソーシャル・キャピタルに関する先行研究のレビュー。
- (2) ソーシャル・キャピタルに大きな影響を与えるネパールの社会開発の取り組みと社会的・文化的背景(カースト制度、人身売買の実態と防止策、ジェンダー不平等とその是正策、教育事情)の解説。
- (3) マイクロファイナンスのグループメンバーへの聞き取り調査の詳細。
- (4) 不可触民のなかでも最下層であるバディカーストの聞き取り調査と歴史的背景の解説、現状分析、および今後の課題。
- (5) マイクロファイナンスが女性グループメンバーに対してもつ効果、特にエンパワーメントの観点からの分析。
- (6) マイクロファイナンスとソーシャル・キャピタルとの相互作用による効果の検討。

ソーシャル・キャピタルはコミュニティ単位での地域特性、マイクロファイナンスは地域における行政の対応が重要だが、両者を十分に踏まえたうえでの論考が展開されている。

4. 所見

綿密な聞き取り調査により、バディも含めたダリットが置かれている不条理とさえいえる現状を活写した点は本論文の最も重要な付加価値である。しかも、それを単なる記述にとどめることなく、ソーシャル・キャピタルの概念を導入し、マイクロファイナンス活動との相互作用の観点から、社会の最下層を分析対象に、マイクロファイナンス活動の効果と、今後取るべき政策までを分析した点も有意義である。また、ダリットをめぐるソーシャル・キャピタルをマクロ、ミクロに分け、さらにミクロを認知的・制度的に分け、ネパールの地域別にみたマイクロファイナンスとソーシャル・キャピタルの関係を軸に分類を呈示したことにより、ダリットのおかれている状況の地域による相違を明らかにした点も、従来にない新たな視点を提供しているもので、付加価値が認められる。このほか、ソーシャル・キャピタルとマイクロファイナンスとの関係に関する仮説をまとめ、聞き取り調査によって実証していることも大きな知的貢献である。加えて、筆者はマイクロファイナンスとソーシャル・キャピタルからみた地域特性を示し、地域の歴史的・社会・経済的特色が地域のソーシャル・キャピタルの形成にどのような影響を与えたかの分析も展開し、極めて興味深い。

また、発展途上国が抱える貧困の問題を迫及するために、ネパールの女性たちの共同活動であるマイクロファイナンスに焦点をあて、精力的に現地調査を行ってきたが、これまでこのような質的な調査に基づく、広範囲にわたる現地資料は少ないのではないかといえる。その点で、本論文はマイクロファイナンスとソーシャル・キャピタルの研究に新たな地域的な事例としての貢献となっただけでなく、広くジェンダーと開発の分野の研究の発展にも、極めて有益な貢献をしたと考えられる。

よって本論文は、博士(国際関係)の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成26年12月8日